

The New York Times



ハリケーン「カトリーナ」の後、救助される住民と飼い犬。災害時には飼い主とペットが離れ離れになることも多いので、事前の準備が大切



3月11日の東日本大震災の発生を受けて、今回は予定を変更し、もしもの緊急時に備えて飼い主がしておくべきことについてお話しします。今回の災害は未曾有の大惨事となり、被災された人の中には、ペットを残しての避難を余儀なくされた方も多いことでしょう。これは、2005年にハリケーン「カトリーナ」がルイジアナ州を襲った際も同じでした。被災した飼い主たちは、避難生活が長期化するとは思ってもせず、愛犬を残していったん避難しました。その後、取り残された犬たちが自然にパツク（群れ）を形成し、数匹で団結して泥だらけの水の中を泳いでいる光景を覚えている方も多いのではないのでしょうか。

私自身は、非常事態が起きて

飼い主にできる準備

愛犬ジュリエットと離れることなく、一緒に居られるところに車でも歩いてでも避難したいと考えています。実際に災害が起きれば、自分の意志に反してペットと離れられてしまうケースも多いはず。連邦緊急事態管理庁（FEMA）は、飼い主は災害時に避難する際、ペットを置き去りにしないようにと促していますが、引き受け先の避難所などの設備が行き届いていないこともあります。実際に今、日本でも、多くの動物愛護団体が名乗り出て、はぐれたペットの保護と飼い主との再会に全力で努めている様子がインターネットなどから伝わってきます。

このような緊急時に備えて飼い主ができることには、次のことが挙げられます。

① **愛犬の写真を撮る** — 犬だけでなく、家族と一緒に写っている写真も大切です。紙焼きだけでなく、携帯電話などで常に携帯する機器にデータを保存しておきましょう。犬が居なくなった時にシエーターなどで検索する際にも役立ちます。

在米22年。かつては人間の専門家を目指し文化人類学を専攻。2001年からキャリアを変え、子供の頃からの夢であった「犬の専門家」に転身。地元のアニマル・シェルターでアダプション・カウンセリングやトレーニングに関わり、個人ではDoggie Project (www.doggieproject.com) というビジネスを設立。犬のトレーニングや問題行動解決サービスを提供しつつ、13歳になるピットブル、ジュリエットとニュージャージーで楽しく生活中。ご意見・ご感想は：info@doggieproject.com



てらぐちまほ

緊急時に備えて

第14回

寺口麻穂

ドギーパラダイス!

犬と人間の快適な生活

- ② **マイクロチップとタグの両方を装着する** — 個体識別用のマイクロチップが埋め込まれていても、稀にスキヤナーで読めないことがあるので、チップだけでなく、飼い主の連絡先を書いたネームタグも装着しておくより良いでしょう。
- ③ **市や町に登録し、ライセンスをもらう** — ライセンスは毎年必ず更新しましょう。地方自治体に登録していたために迷い犬が飼い主の元に無事に戻ったという例は、数えきれないほどあります。
- ④ **[In Case of Emergency] カードを作る** — 私は常時、私の身に万が一のことがあった場合に家にいるジュリエットを保護してもらうために、いくつかの連絡先を書いたカードを財布に入れて持ち歩いています。
- ⑤ **近辺のアニマル・シェルターを確認する** — はぐれた犬が保護される可能性のあるシェルターの所在地を事前に調べておきましょう。
- ⑥ **犬用の避難袋を作る** — 人間用はもちろん、愛犬用の避難袋を準備しておきましょう。必要なのは、約1週間分のフードや水、薬、狂大病の証明及び獣医の記録などです。これらはほんの一例ですが、下のウェブサイトに詳しい情報が載っていますので一度熟読することをお勧めします。

FEMAのサイト：
www.fema.gov/plan/prepare/animals.shtm
 動物愛護団体ASPCAのサイト：
www.aspc.org/pet-care/disaster-preparedness/

次回から予定通り数回に渡って、私が愛して止まないピットブルについて取り上げます。この犬種は、世界で一番誤解されています。少しでも多くの方がピットブルを正しく理解できるようにと張り切っていますので、お楽しみに!

コロジカル